岩手大学
三陸復興　地域創生推進の主な取組

岩手大学研究支援・産学連携センター
副センター長／教授　今井 潤

1．岩手大学研究支援・産学連携センターの創設

特徴

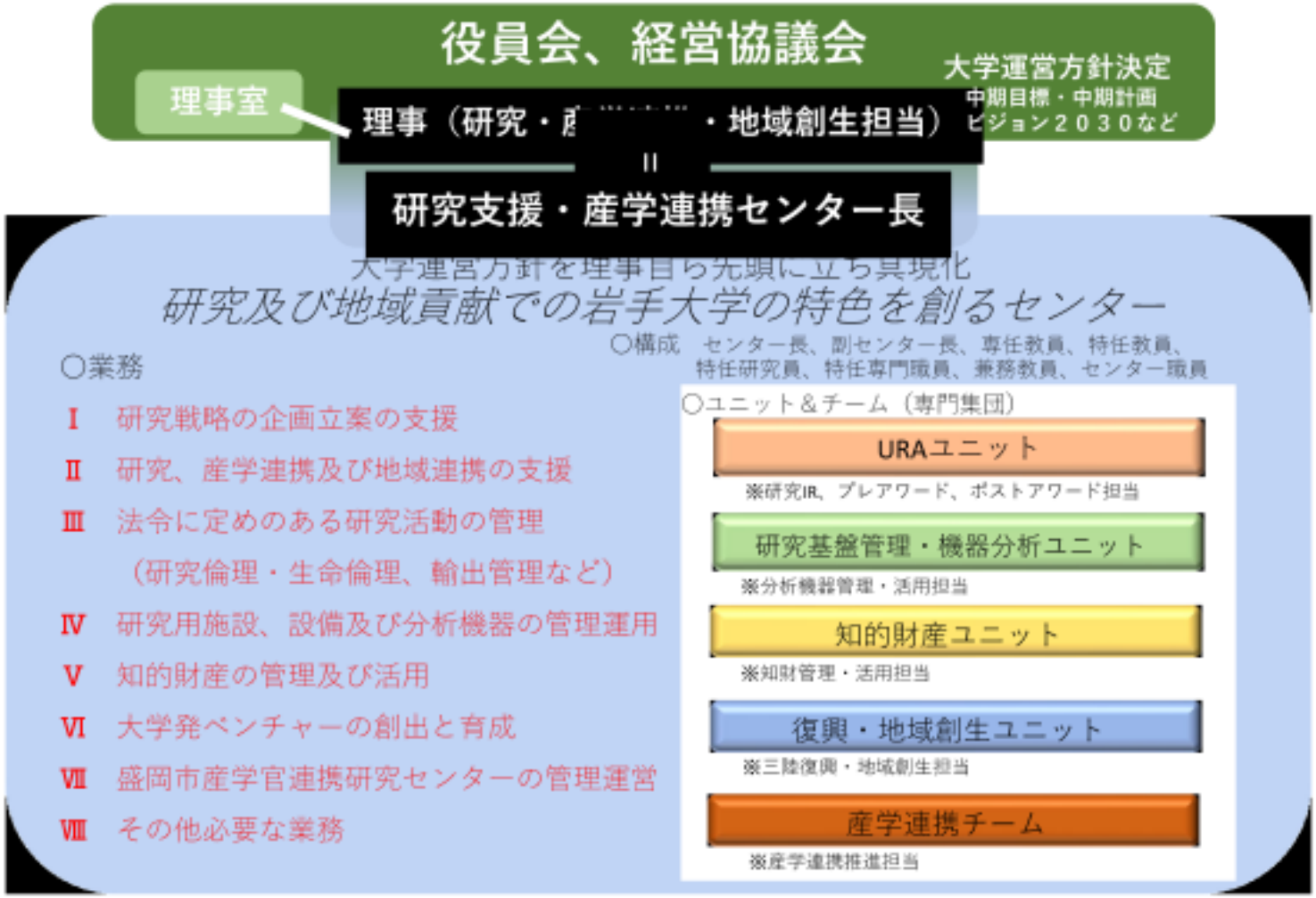
①研究・産学連携・地域創生担当理事が自ら統括するセンター（経営陣が自ら具現化を担う）

②研究支援から産学連携・地域創生までのワンストップ窓口

（研究推進機構と三陸復興・地域創生推進機構を統合することで生まれたメリット）

③機動性と安定性の両面を取り入れた組織体制

（多様な業務に対応するため部門制を廃止する一方、固定スタッフが必要な業務によっては、ユニット制を導入し、業務の安定化を図る。）



２．教育研究領域の推進①

『地域創生モデル構築』

☞東日本大震災発災後からこれまで取り組んできた震災復興活動や研究活動の成果を地域の持続的発展に活かす取組に移行する段階にきていること、本学に求められている地域ニーズが変化していることなども踏まえて、これまでの活動を見直し、今後、三陸の復興と地域創生のために地域と連携して取り組み活動について、地域における自律的、持続的な活動につなげることを目的に地域創生モデル構築支援経費を創設。学内公募の上、6件を採択。

1）農業者と大学人が交流するWebセミナーの仕組み作りとそれを活用した三陸地域の農業振興
2）いわての漆産業の発展に資する生漆生産技術の高度化
3）被災地における心のサポート及び継続的な支援基盤の構築を目的として講演活動とカウンセリング活動の実践
4）地域住民の主体性醸成による地域コミュニティ支援
5）防災学習施設「いのちをつなぐ未来館」を拠点とした地域防災教育の展開に関する実践的研究
6）学校安全教育プログラム「岩手モデルの構築と全世界への情報発信」

３．教育研究領域の推進②

『地域防災教育研究部門（地域防災研究センター）と東日本大震災津波伝承館との連携に関する協定締結

（令和２年８月３日）

☞震災から１０年を迎えるにあたり、東日本大震災からの復興への取組を更に加速し、地域とともに教育・研究を更に深化させていくことを目的に共同研究締結

研究テーマ

①復興・防災教育及び学術研究に関すること
②国内外の研究機関等との連携・交流に関すること
③伝承館の展示内容に関すること

達増岩手県知事（右から3番目）と小川岩手大学長（右から4番目）

４．教育研究領域の推進③

令和２年１０月１５日からスタート

『釜石ふるさと寄附金』を活用した釜石市と岩手大学との取組

☞釜石市のふるさと寄附金のメニューに岩手大学釜石キャンパスの事業や各種取組に対する寄附項目を設け、寄附金を（水産業に関わる）研究開発、産業育成（水産業の持続的発展に貢献できる）人材養成に係る取組に活用

第一弾

事業テーマ１
三陸水産研究センターによる釜石地域でのサーモン養殖研究

☞釜石湾の環境特性に適合した品質の良いサーモンの海面養殖生産を目指すために、内水面での地域発優良種苗開発・育種研究及び陸上・海面での養殖実証研究を行う。

事業テーマ２
釜石キャンパス在籍による学生の地域活動支援

☞釜石キャンパスの学生が積極的に地域づくりに参画し、地域との関係性を深めることを目的とした活動を行う。

岩手日報　2020年（令和2年）10月17日（土曜日）　社会（20）

ふるさと納税で研究支援

釜石市と岩手大

養殖、学生活動に活用　「魚のまち」復活後押し